

**Keio SFC Academic Society, Research Grant 2023**

**(A)研究成果発表(学会発表) 成果報告書**

平本謙一郎

(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程 1年)

**研究発表：Understanding Natech Risk Communication:**

**Insight from China and Japan**

発表形式：口頭発表 対面／オンライン

学会名称：The 7th International Symposium on Natural

**Hazard-Triggered Technological Accidents: Strategies to Address**

**Challenges of Climate Change under a Post-Covid-19 Era**

会場：四川大学

開催期間：2023/06/29 to 2023/06/30

ウェブサイト：<http://idmr.scu.edu.cn/info/1061/1205.htm>

**発表概要** ナテック (Natech) とは、有害化学物質の流出など、自然災害によって引き起こされる新しいタイプの産業事故を指します。第7回ナテック国際シンポジウムは、「ポスト疫病時代における気候変動の課題への対応」をテーマとし、ナテック災害管理分野における科学的知識、先進的な経験、優良事例、革新的なリスク評価手法、持続可能なリスク管理戦略、統合的解決策を共有することを目的としています。会議ではナテック・リスク管理の分野における科学的知識を発表し、先進的な経験、優れた実践例、革新的なリスク評価方法、持続可能なリスク管理戦略、統合的なナテック・リスク軽減策を共有することを目指します。会議は対面／オンラインを組み合わせて開催され、国内外の緊急事態管理、化学工学安全、環境安全、その他関連分野の研究者や専門家が基調講演を行いました。今回の発表ではナテック・リスク・コミュニケーション

の問題点を明らかにするために、過去の中国と日本のナテック事故と事故後の対応を比較、それぞれの対応の相違、問題や課題を浮き彫りにし、より効果的なナテック・リスク・コミュニケーションのあり方、その先にあるナテック・リスク・フレームワークの構築まで視野に入れた研究発表を行ないました。なお、本研究は発表者本人の他3名、計4名の共同研究となっています。メンバーと所属は以下の通りです。Mr. Gao Yinan（前期博士課程1年）、Mr. Arunabh Mitra（後期博士課程2年）、Ms. Ariyaningsih（後期博士課程3年）、それぞれ慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 Graduate School of Media and Governance, Keio University, Japan に在学中です。発表者本人は唯一の日本人として、研究分野の主に日本のリサーチ部分を担当、今回それぞれの強みを活かした研究の成果が獲られ、それを発表しました。

**研究成果** 中国と日本のナテック事故の比較および事故対応について比較検討することにより獲られた、それぞれの知見を今後のナテック・リスク・コミュニケーションやナテック・リスク・マネジメントの構築に応用することが期待されました。特に日本と中国のそれを扱った先行研究はまだ見当たらないため、その分野での成果が期待されたとともに、今回の発表会場が中国であったため、より具体的で活発な議論につながることを期待できました。

**今後の展望** 過去どのようなナテック事象があったのか。また、その事象への対応がどのように行われ、どのような結果や成果をもたらしたのかを整理し、探求究明することは、今後の日本と中国のナテック・リスク・コミュニケーションやナテック・リスク・フレームワークの構築に資するのみでなく、日本や中国だけではない、それに続く発展途上国の国々のナテック対策にも、その応用と可能が視野に入ると考えます。その理論的枠組みと背景を二つの高度化した産業先進国のナテック事故事例をもとにチームで検討して来ました。その結果ナテック・リスク・コミュニケーションやナテック・リスク・フレームワークの構築に、いまだ多くの問題点や課題、ギャップがあることもわかりました。今後はそれらの問題を解決すべく、さらなる研鑽と研究を続けて行きたいです。

（了）